



NPO

インターンシップラボ

シンポジウム 2022

報告書

学生にも、団体にも、地域にも

満足度の高い

NPO インターンシップ

づくりのゴツ

2年ぶりの
リアル開催!

NPO インターンシップラボ シンポジウム 2022 開催概要

プレイベント

スループット・アウトプットの過程（プロセス）から
考える！満足度の高い NPO インターンシップとは？



9月14日（水）18:30-20:30 オンライン開催（Zoom）

メインイベント

- ① NPO インターンシップが描くライフキャリア
- ② NPO インターンシップのはじめ方



9月18日（日）13:30-18:00 対面開催（サイボウズ株式会社 東京オフィス）

主催 NPO インターンシップラボシンポジウム 2022 実行委員会

助成

cybozu サイボウズ株式会社

私たち NPO インターンシップラボは、各地域で NPO インターンシッププログラムを運営する中間支援組織のコーディネーターが集まり、2018 年からスタートしました。

シンポジウムや勉強会などの情報発信・交流の機会のほか、事例調査等の活動を通じて、NPO インターンシップの意義や価値について議論しています。

本シンポジウムはその一環として、毎年開催をしています。今年の実行委員会では、東京、神奈川、千葉、福島、栃木のメンバーを中心に新メンバーもむかえ、サイボウズ株式会社さんのご支援のもと、準備を進めてきました。そして、議論の中で今年のテーマを「学生にも、団体にも、地域にも満足度の高い NPO インターンシップづくりのコツ」と決めました。

NPO の活動は地域やテーマによって多岐にわたるのが特徴ですが、参加学生や受入 NPO にとって満足度の高いインターンシッププログラムを作れるかはコーディネーターの腕の見せ所です。新型コロナウイルスの影響で活動形態も多様化する中で思いを活かしたプログラムを作るにはどのようなコツがあるのか、皆さんと考えていければと思います、このテーマとしました。

シンポジウムはオンラインセッションのプレイベントと、サイボウズ社をお借りした対面とオンラインのハイブリッド開催の2回を実施しました。対面での実施は3年ぶりでしたが、各地のコーディネーターとの交流も弾み、参加者で大いに盛り上がりました。

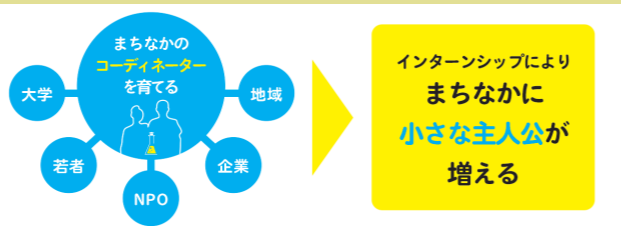
今年も実行委員会からシンポジウムまで手作りの開催でしたが、参加者の皆さん、実行委員の皆さんのコミュニケーション力の高さに助けられ、無事シンポジウムを開催することができました。集まった各地のコーディネーターの皆さんとともに充実した議論ができたと思います。皆様、ありがとうございました。

本報告書はそのシンポジウムの記録をまとめたものです。NPO インターンシップをはじめ、若者と地域をつなぐ取り組みに関わる皆様の活動の参考となれば幸いです。



NPO インターンシップとは？

主に大学生・専門学生・高校生が NPO で一定期間インターンシップ（就業体験）をするプログラムです。運営主体や実施期間などは様々あります。本事業ではその中でも企業インターンシップのような就業目的ではなく、学生が地域や NPO を学び、社会参加するきっかけ作りとして行われているプログラムを対象としています。



各地域で行われている NPO インターンシップとは



NPO インターンシップラボ「全国 NPO インターンシップラボ事例集」より



生まれている効果

- ・NPOが活性化し、発展する
・地域と若者がつながる
・若者の経験値が高まる
・主体的に動ける人が地域に増える
・地域が活性化し、多様なつながりが活動に活かしている
・社会の課題解決が促進される

NPO インターンシップでまちなかに **小さな主人公**が増える！

小さな主人公とは？

リーダーを育てる仕組みはいろいろありますが、リーダーはひとりだと孤立してしまいます。普段はあまり表に出ないけれど、NPOに参加することでそういうリーダーを支えて地域を盛り上げていける若者の存在が必要になります。「まだやりたいことがわからない」「自分に自信がない」という普通の若者が地域に出ることで、そのような、いわゆる「フォロワー層」になるのではないかと考えています。

1) リーダーを支えるフォロワー的存在である
小さな主人公も大事

2) そうした小さな主人公は NPO インターンシップの
ような体験型プログラムで育まれる

「リーダー的な主人公」

NPO・社会的企業等の立場で
新たな道を切り拓く

「小さな主人公」

普段はあまり表には
出ないけれど、NPOや
地域の活動に関心・共感を寄せる

やりたいことが
まだわからない…

自分のできるところから
もうちょっと何かやってみたい！



※本来、すべての人はその方の人生における主人公ですし、主人公に大きいも小さいもないところですが、今回はあえて新たな動きで社会を切り拓かれ、時に表舞台に立つこともあるリーダー的な主人公との対比で「小さな主人公」という表現を用いています。

今回のシンポジウムは
2年ぶりのリアル開催！
さらに、遠方からでも
参加しやすいオンライン配信
イベントも「プレイベント」
として開催しました。



プレイベントとメインイベントの
グラフィックレコーディングは
実行委員の野際 理枝さんの力作！
こちらもぜひご覧ください！

スループット・アウトプットの過程から考える！ 満足度の高いNPOインターンシップとは？



- 進行**
- 橋本 空氏
町田市地域活動サポートオフィス
- 登壇者**
- 兼松 佳宏氏
「グリーンズの学校」編集長
 - 大石 果菜氏
まっど市民活動サポートセンター
(ボランティア体験講座「Let's体験!!」担当)
 - 重松 育実氏
明治大学3年生
(ボランティア体験講座「Let's体験!!」参加者)

インプットが知識を得ること、アウトプットが得た知識を使って働きかけることだとすると、スループットはインプットとアウトプットの間にある「頭の中で考える」プロセスのことを指します。今回は、スループットのプロセスを意識した参加者の満足度の高いプログラムの設計について考えました。

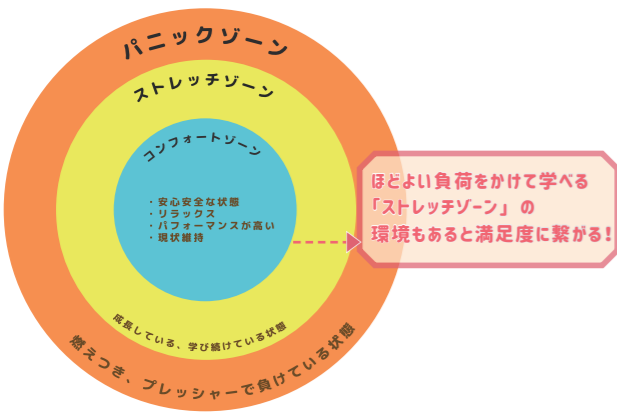
満足度を上げるには「学びの環境」づくりが大切

ご自身のことを「勉強家」だと称する兼松さん。編集長・講師としての肩書をDoの肩書きとするならば、自身を表すBeの肩書は「勉強家の兼松」だそうです。

はじめに、コンフォートゾーン・ストレッチゾーン・パニックゾーンについて解説いただきました。「安心安全な場が大切」とよく言われますが、安心な場(コンフォートゾーン)にずっといる状態では本人の満足度が低くなってしまふことが分かっているそうです。

反対に、背伸びをしすぎる(パニックゾーン)と自信を持って学ぶことができない状態になります。

本人にとって、ほどよい負荷をかけてチャレンジしている「ストレッチゾーン」で学べる環境があることが満足度に繋がります。



兼松さんは、スループットの過程において「わからないことをわからないままにする」という点も大切だとお話されていました。「何を調べよう?」、「何をしよう?」と考えると同時に、「自分は何をしたいんだろう?」、「何がしたかったらいいだろう?」と問いを繰り返すことで、質が高く効率の良い学びになります。ここでポイントなのは、一人ひとりの成長のペースは全く異なるということ。個人個人と対話をしながら今どんな気持ちで取り組んでいるのかを把握し、サポートする必要があるそうです。

兼松さんおススメ! 学び別のワーク例

また、個人の学びと同様に、複数人で行う「Co- (共同の)」の学びも大切とのこと。自身では気づけなかったり、見えていない部分をみんなで教え合う場を作るというのも、プログラム設計者の大事な役割ですね。

- < 個 - スループット >**
- 1) 頭の中を出し切る 「ジャーナリング」
 - 2) 頭の中をまとめる 「マインドマップ」
 - 3) 自分自身を検索する 「白紙でスループット」
- < 個 - アウトプット >**
- 1) 覚えられないことを整理する 「クイズづくり」
 - 2) “いい” の解像度を高める 「心の動きエッセー」
 - 3) 途中経過を言葉にする 「アウトライニング」
- < Co- スループット >**
- 1) 今この問いを持ち寄る 「オープンスペース」
 - 2) 問いをプレゼントし合う 「クイズ」
 - 3) 文通&宴会で気づきをシェアする 「〇〇学会」
- < Co- アウトプット >**
- 1) 20枚×20秒で伝える 「ベチャクチャナイト」
 - 2) 非同期に音声でつながる 「ここだけラジオ」
 - 3) みんなで試す 「プレートティング DAY」

学生・NPO 双方にとって満足度の高い NPO インターンシッププログラムをどう設計するかはコーディネーターの腕の見せ所。プログラム設計と満足度の関係性を、コーディネーターの視点で探りました。

トークセッション

橋本：重松さんはまっど市民活動サポートセンター（千葉県松戸市）の夏のボランティア体験の参加者の体験談をまとめる文集（冊子）作りの集まりに長年参加をされていたと伺います。その文集づくりの中で、満足度が高かったポイントは何でしたか？ 実体験から教えてください！

重松：よかったのは、自由度の高い話し合いができたことかなと思います。コーディネーターが打ち合わせに参加する時間が短く、ほとんどの時間を学生たちだけで話し合っていたので、のびのびと企画でき本当に楽しかったです。何年か続けて参加しているうちに、コーディネーターがあまりその場にはいないのは自分たちを信頼して任せてくれるからかな、と思うようになりました。

大石：重松さんが気づかれていた通り、あえてあまりその場にはいないようにし、何かあったら声をかけられるような距離にいたことを意識していました。「楽しかった」と思ってもらえてよかったです。楽しくないと学生も活動が継続しないし、学生が楽しい活動じゃないと地域にもいい影響にならないと思います。楽しみながらさまざまな経験をした子どもたちが、今度は地域や社会で若者を応援する側になってくれたらいいなと思っています。

兼松：「視線は無いけどちゃんと見てる」という姿勢は大切ですね。視線が無いことで、プレッシャーを与えずにのびのび取り組める環境を作ることができます。一方、相手の小さな変化に気づくということも支援者としてはとても大事だと思っています。「程よい安心感」というイメージですね。



重松さんは中2の時に同センターのボランティア体験講座の参加者としてボランティア活動を始め、その後、参加者の感想をまとめた冊子をつくる「ふりかえり文集作成委員」として、夏の終わり～年末年始まで毎年活動しています。

最後には、参加者の方と一緒に「印象に残ったこと」をシェアしました。キーワードとして意見があったのは、「わからないことをわからないままにする」、「安心安全な場が必ずしも満足度の高さに比例するわけではない」、「自由度の高い話し合いの場が良い学びの機会になった」などの言葉が特に心に残っています！（橋本）

実行委員のコメント

登壇者の方々の「分からないことをわからないままにする」、「安心安全な場が必ずしも満足度の高さに比例するわけではない」、「自由度の高い話し合いの場が良い学びの機会になった」などの言葉が特に心に残っています！（橋本）



NPO インターンシップが描くライフキャリア

進行

上田 英司氏
日本 NPO センター 事務局長次長

登壇者

飯田 貴也氏
NPO 法人新宿環境活動ネット 代表理事 (CSO ラーニング制度卒業生)

田口 雄一氏
認定 NPO 法人はれっと 副理事長 / 会社員 (SSCS インターンシッププログラム卒業生)

渡部 桃子氏
福島県立総合衛生学院 助産学科 学生 (福島チャレンジインターンシップ卒業生)



NPO インターンシップは学生の卒業後のキャリアにどのように生活しているのか、という点に着目し、参加する学生の学びについて深堀していきました。特に、参加学生の今後のキャリア・社会に出て役立つこと等の「ライフキャリア」、その人自身の生き方全体を考えていく分科会となりました。

NPO インターンを経験した3名から紐解く体験

飯田：環境教育プログラムのコーディネーターなどに携わっています。「環境」について伝える、特に次世代を担う人材育成に関心がありました。高校時代からは学校教員を目指し始め、大学でも教職課程を履修しました。大学4年生のときに「SOMPO 環境財団」主催の「CSO ラーニング制度」という学生を環境 NPO・NGO に派遣する長期有給インターンシップ制度を発見し、今の就職先である新宿環境活動ネットと出会いました。「教育」と一口に言っても学校教育だけでなく社会教育施設や、NPO のような立場や仕事があることに気が付き、人生が変わりました。そのままインターンシップ終了後、派遣先だった現在の団体に就職。あれよあれよと代表となり、今に至ります。

田口：大学生のときは福祉を専攻していました。大学院に進学する予定で、4年生のときに残りの大学生活をどうするかと考え、長期インターン (9 か月間) の SSCS インターンプログラムに参加しました。知的障がい者の支援 (余暇、働く場所の提供など) に関わりました。インターン関連で外国にも行くことができましたね。卒業後は民間企業に就職し、傍らで NPO にも関わっています。

渡部：ふくしまチャレンジインターンシップに参加し、3 団体で活動しました。現役の学生です。助産師を志望しています。よろしくをお願いします。

上田：部活やアルバイトなどの選択肢はたくさんある中、なぜ NPO インターンシップへ参加しようと思ったんですか？

飯田：まずは、大学4年生で時間があつたことが大きかったです。「(自分の思い描くキャリアの一つだった) 学校教員になる前に視野を広げたい、色々和社会経験したい」と思い、NPO インターンシップへの参加を決めました。

田口：金銭的な支給がついていたこともあり、「どうせアルバイトするのならインターンシップのほうが良い経験ができるのでは」と感じました。また、NPO に興味がある学生と友達になれるのでは、という期待もありました。また、大学の専攻が福祉・ボランティアだったことから、情報を学内でも集めやすかったことも大きかったです。

渡部：インターンシップには高校時代に1回、看護専門学校に2回参加しました。高校生のときは時間がいっぱいあつたし、学校の先生に勧められたことも大きかったですね。障がいを持つ小・中学生の放課後等デイサービスで活動しました。距離的に通える地域で、行きたいと思った団体でした。参加してみて、リアルな現場を知れ、学びが多くありました。看護学生になってから「教科書に載っていないリアルな現場を知りたい」と思っていたときに、インターンシップを思いだしてまた参加しました。

上田：インターンシップに参加して身についたことはありますか？

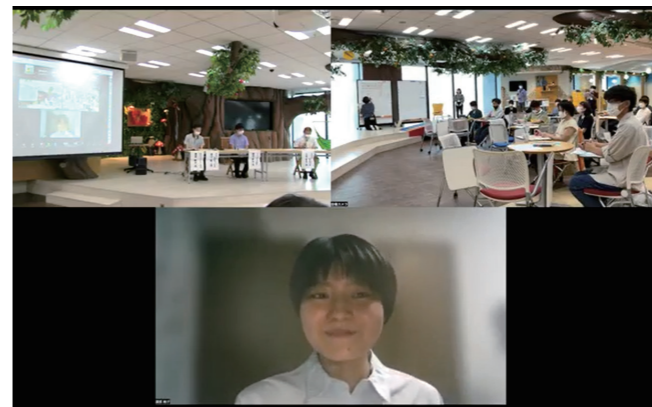
田口：インターンシップを通じて「人に説明する」力があつた。人に説明するとき、自分が体験したことの方が説明ができますね。経験したからと言って、自然と説明がうまくなる、ということでもありませんが… (苦笑)

渡部：社会のルールを知れた、NPO という選択肢に気づけたこと。そのほかにも障がいを持っている人への偏見に気づけました。最初から決めつけず、真実を知らない判断が鈍る。ギャップを感じたんですね。あと、初対面の人と話すのも緊張しなくなりました。



渡部さんは Zoom をつないで福島からの登壇となりました

NPO インターンシップは卒業後のライフキャリアにどのように影響しているのか。経験者の学生とともに、その場限りではない、中長期的な目線から見た NPO インターンシップの満足度について一緒に探る時間を作ります。



飯田：人脈が広がったことが一番の財産です。インターンシップをすることで「学生の名刺」だけでなく、NPO や社会教育施設の名刺 (肩書) といった複数の名刺を持つことになり、それにより多くの方と接点を持つ機会をいただきました。ありがたかったですね。

上田：今の活動に活かされている経験はありますか？

渡部：障がいの子どもの居場所・育児の母親の憩いの場に参加した経験は今まさに繋がってます。1~2か月の赤ちゃんがいる母親の集いに参加して、悩み、疲れ、リアルな声、リアルな表情を見ることができた。今参加している実習で、初産婦さんに育児の情報提供を自分がすることもできました。

飯田：インターンの派遣先にそのまま就職しているの、連続しているという、当時の経験が丸ごと活かされていますね。それこそ、今は自分がインターン生の受入対応をしていて、元インターン生という経験を活かし、学生と NPO が高め合うより良い場にしていきたいと思います。大学院で環境教育 NPO について調査・研究する中で、持続可能な社会づくりを目指す団体自体の持続可能性に危機感を覚え、世代交代や事業継承の必要性を痛感しました。その上で、環境教育を受けて育ってきた自分たちの世代で業界を変えていきたい、という社会的な使命感は持っています。その意味では、同世代の活動者が増えてほしいですね。



シンポジウムでは久々のグループワークも行われました

上田：「ライフキャリア」の視点から NPO インターンに参加する意義について、感じていることはありますか？

飯田：必ずしも、(そのまま派遣先の NPO に就職するという) 自分みたいになってほしいとは思っていません。NPO でのインターンシップをきっかけに、色々な経験を積んで人脈を広げてほしいです。

田口：社会人になると「いい」と思ったことに時間をかけるのが難しくなつてきます。学生は大学での学びと、現場での言葉にならない学び…理論と実践を行ったり来たりできる強みがある時期だと思います。

渡部：社会との関わりを通して、自分の知らなかった自分を知れます。百聞は一見に如かず、だと思います。実際に経験して得たものが参加者によって違う、そこがインターンシップの面白いところですね。

私は自分に自信が持てなかつたんですけど、前向きにしてくれた。自分がやってみようと思ったことにチャレンジすることで自己肯定感を感じられるようになりました。

(会場の参加者からの質問)：ボランティアではなく、あえてインターンシップを選ぶ意義はあると思いますか？

飯田：インターンシップに参加する大きな強みは「派遣先の団体スタッフと同じ立場で、一緒に事業を進めていける」ことだと思います。短期のボランティアだとしても「お手伝い」「サポート」という立場になる場合が多いので、そこは大きな違いかと。

田口：ボランティアもある種の教育だと思いますが、その教育に対するリソースを多く使うことができるのはインターンシップだと思います。団体にとっては、組織に必要な人と出会える機会にもなるので、インターンに期待することは大きいのではないのでしょうか。

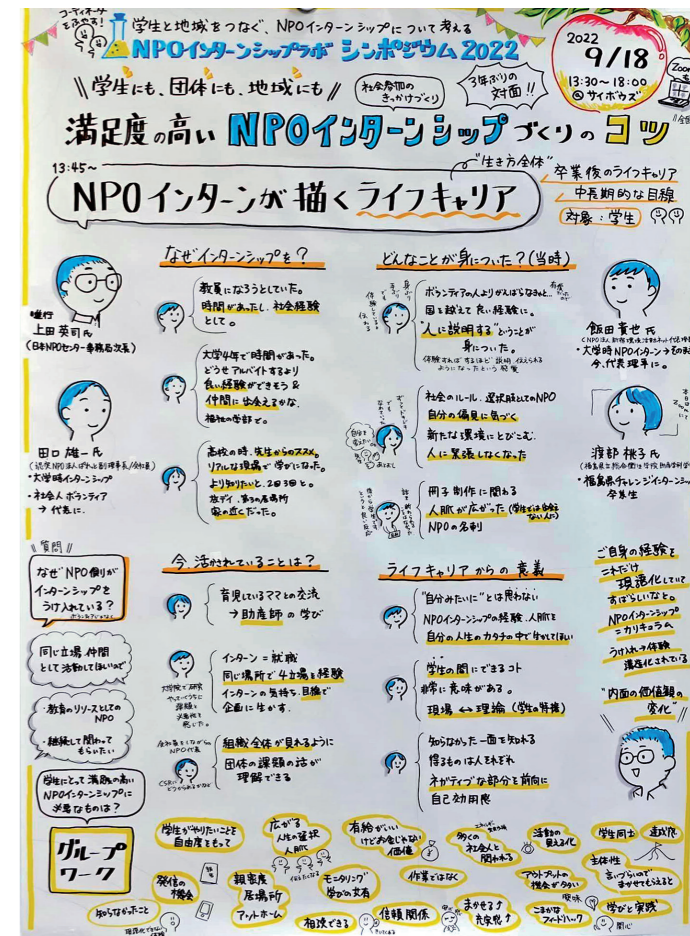
上田：後半はボランティアとインターンシップの違いについても話もありましたね。インターンにはカリキュラム (= 構成) があり、受入団体もどういったコミットメントをするのか、構造化された受入れとなるのが個性でしょうか。

実際にインターンシップを進めていくと、予想できないことも色々出てきますが、それも醍醐味の一つでしょう。(笑)

内面 (自分自身の価値観) の変化に、まさに現場で出会えた、という話もありましたが、それはインターンシップにおける学びと実践のサイクルの中で非常に重要な要素だと思います。今日はありがとうございました。

実行委員のコメント

「ライフキャリアを描く」というのはなかなか難しいかな、と企画しながら考えていましたが、インターンシップの経験を大切にその後も NPO の活動現場で活躍されている登壇者のみなさんの「リアル」と出会えて「実感」「共感」ができました。(熊谷)



インターンシップのはじめかた

登壇者



島田 京子氏
・元 日産自動車株式会社
・「エクセレントNPO」をめざそう
市民会議 共同代表



「日産 NPO ラーニング奨学金制度」
(NPO インターンシップラボ事例ページ)

<https://npointernship-lab.net/archives/636>



**地域インターンシップ
世田谷実行委員会**



地域インターンシップ世田谷
<https://internship-setagaya.net/>



「地域協働の人材育成」である NPO インターンシップの意義について、1998 年、日本で初めてインターン制度を始めた島田京子さんにお聞きしました。また、2021 年から開始した「地域インターンシップ世田谷」の事例をもとに、コーディネーター・行政・参加団体それぞれの視点から、NPO インターンシップのはじめ方のいろはをつまづきや成功ポイントとともにお話しいただきました！

しかし、「やってみたことで初めて不足が分かった」とも皆さんは話しており、「事務局体制が不足していたのが現状。地域の人材をコーディネートする存在が大切だと感じた。受入れ団体との関係性があつたことで何とか成功できたのではないかと立ち上げてから見えたこともあつたようです。

事業の運営側としても関わっている鎌野さんは「いまの地域に知っている人がいないと感じているタイミングで、ちょうど声を掛けてもらった。この事業に関わるようになり色々なところに声をかけ、声をかけてもらえるようになって、世田谷に愛着が湧き、もっと足を運んでみたいと思うようになった。活動に足を踏み入れることで、自分の意志をもって行動するきっかけとなったことがうれしい。」と語り、学生側にとってもポジティブな影響を与えている様子が伺えました。



地域インターンシップ世田谷実行委員会の皆さん。左から川崎 修さん（認定NPO法人CFFジャパン）、鎌野 真美さん（大学3年生）、市川 徹さん（世田谷コミュニティ財団）。

登壇者の皆さんのコメント—おわりに—

■島田さん
インターンシップが地域に広がるのはNPO 同士のネットワークにおいても有効ではないかと思いました。NPO でのインターンは学生にとって社会課題を発見する、大切な体験だと思えます。大学では単位取得ができるといいと思います。学生とNPO をマッチングする責任もありますが、学生の成長を促すコーディネート能力が必要かつ責任ある仕事だと思います。

■川崎さん
コーディネーターがやることと、学生に任せられることのバランスや、やりやすい仕組みを整えていくことが大事だと感じました。受入れ団体と一緒に勉強会に取り組みすることも大事だと感じました。

■市川さん
団体も学生の受入れには関心がありましたが、実際の学生の受入れには不安があるようでした。「失敗してもともに学び合えばいい」と捉え、団体と一緒に考えていければと思います。

■鎌野さん
団体、学生の自由度が高いのがいいところだと思う。一方で、自由度が高い分、団体に頼りがちになってしまっているのが課題かもしれません。横のつながりがもう少しとれたらいいな、と思います。

実行委員のコメント
日本初のNPO インターンと、最近立ち上がったプログラムに関わる方々が登壇し、双方に共通する想いや意義を確認できました。「やろう！」という人が集まって、たくさん地域で素敵なプログラムが生まれますように！（宮坂）

本分科会では、「NPO インターンシップを始めてみたい」というニーズに対して、「どういった人が集まればプログラムが立ち上がるのか」「そもそも、どのような要素がNPO インターンシップに必要なのか」といった「はじめかた」に着目し、日本で初のNPO でのインターン制度を創設した島田さんの事例と、2021 年にまさに立ち上げたばかりの「地域インターンシップ世田谷」の実行委員会の皆さんの事例の2つを紐解いていきました。

日本発の社会貢献型インターンシップ 「日産 NPO ラーニング奨学金制度」

日産 NPO ラーニング奨学金制度は1998 年から10 年間継続され、NPO とのパートナーシップで実現した学生を対象とするインターンシップ事業でした。「未来への投資」「多様な社会」をミッションに据え、社会課題の解決に向けて専門性があり質の高い活動をしているNPO をパートナーとして選んだこの制度はNPO と共に将来の世代を育てる仕組みとしては先駆的なものでした。パートナーとなるNPO は福祉や国際協力等以外にも文化芸術などの分野も含み、多様な団体を対象としました。また、奨学生の選考にあたっては、NPO にとって即戦力となる人材ではなく、あえてNPO やボランティア活動の経験の少ない学生を優先したそうです。受入れたNPO からは「全くNPO 活動が分からない人に対して、どう自団体の存在意義を伝えるか勉強になった」「若い人たちが集まりやすくなった」との反響もあつた



「広報ポスターは大学やNPO を回って置かせてもらいました」と当時のことを語る島田さん

そう。奨学金は当時のアルバイト料より多少高額の時給制としていたとのことですが、これには「NPO で働く＝安い賃金、というイメージを持ってほしくなかった」という想いがあつたそうです。学生にも名刺を作って、仕事で関係官庁などに伴って学ばせて下さるNPO もあつたそうです。「学業とNPO 活動という二つのキャリアを持って社会へ巣立っていくことは大変貴重。何のために学びを修めているのか、社会の課題は何か、学生にももう一度考えてほしかった」、「企業活動も元々は社会課題の解決のためにある。自社にとっても、リクルート（＝就職）にインターンシップをつなげるためだけではなく、インターンシップへの取り組みを通して新しい発想や発見をできる人材を育成する、ということを狙っていました」と語りました。企業が社会貢献としてとして将来を担う若者への支援に取り組むことの意義についても、1991 年社会貢献担当部署の創設当初からミッションや方針として綿密に組み込まれていたことで、社内の理解も得ながら取り組むことができたということが重要なことなのではないかと感じました。

コロナ禍でも立ち上げた！ 「地域インターンシップ世田谷」

世田谷には様々な市民活動の歴史がありますが、若者の活動への関わりについては「大学の先生の紹介」がきっかけとなることが多く、それ以外のコーディネートがあまりない状況でした。そこから始まった地域インターンシップ世田谷は、初年度となる2021 年度はオラクル有志の会ボランティア基金からの助成を受け実施。立ち上げ2 年目となる2022 年度は世田谷区の協働事業として実施するだけでなく、運営側に1 年目の卒業生や大学教員も入り、パワーアップした形で進んでいます（実は今回の登壇者である鎌野さんは1 年目に誘われ、実行委員に参加した大学生。普段は大学のある地域でのボランティア活動にも取り組んでいるそうです）。区内外を問わず学生の参加があつた同事業ですが、「実際には参加者10 人でも集めるのが大変だった。学生の参加具合にも個人差があつた」と話します。

学生や団体にとっての影響は生まれたのか

実施してみて感じたポジティブな側面としては、参加者にとって「今までの価値観を超えた新たな発見があつたこと」「居場所体験にもなったこと」などがあがりました。今回、特定のゼミに声をかけずに参加者を募集したことで団体からも「多様性が高まる」との声が上がりました。テーマを超えて活動している団体が多い世田谷の強みも相まって充実した体験となったようです。

フロアを変えたトークセッション

Q. インターンシップ事業にかかる経費はどのくらいですか？

A. 実費としてはそんなにかかりませんが、コーディネートにかかる人件費は必要です。世田谷区から提案型協働事業の補助金として50 万円をいただきましたが、将来的には助成金などに頼らず地域から支援者を増やすことも考えていかなければならないと思っています。

Q. どのような役割分担を内部で行っていますか？

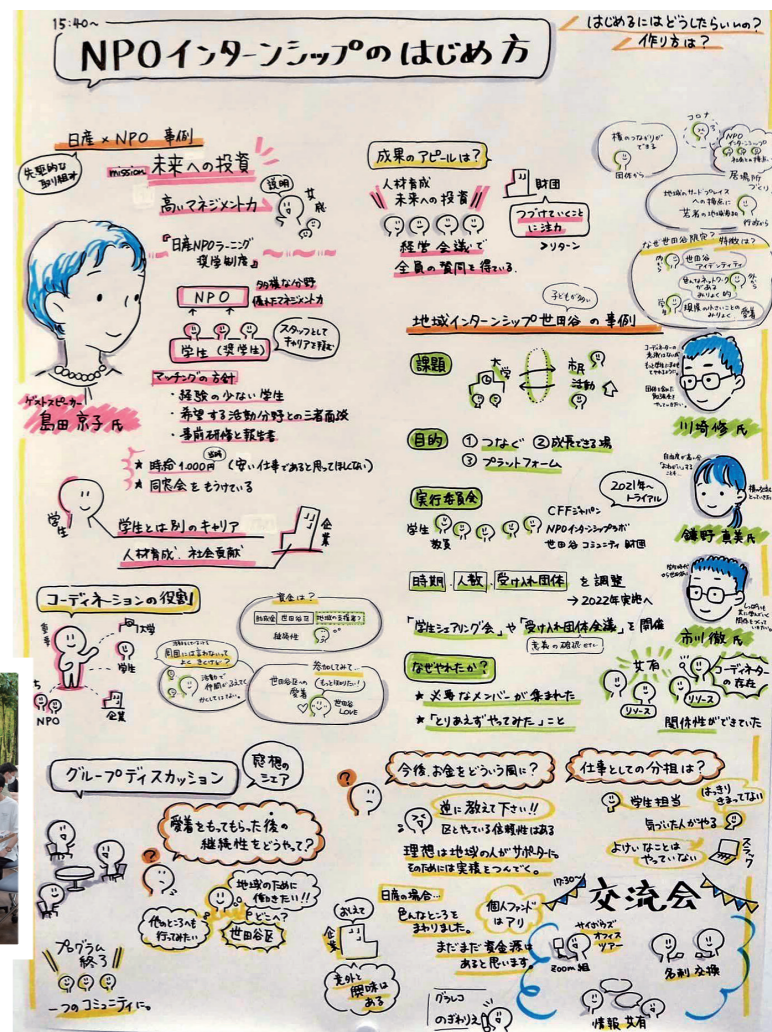
A. 「団体担当」は大人、「学生担当」は学生の実行委員で分担していましたが、それ以外の役割分担は明確には決めていませんでした。

Q. 鎌野さんへ：友達と普段からNPO 活動のことを話しますか？

A. 今回のようなイベントに行くことと沢山の人に会えることに楽しさを感じます。地元でもこういうイベントができると、活動への参加ハードルが下がったり、興味を持ってくれるようになるのではないかと思います。（鎌野）



参加者として来ていた世田谷区の職員・受入れ団体の方からコメントを頂く場面もありました。

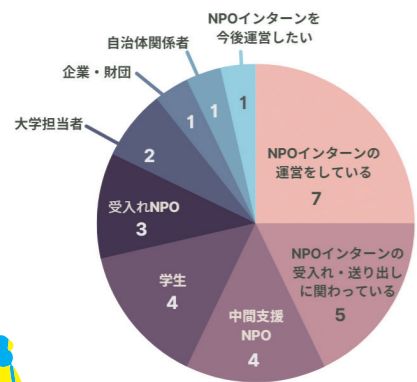


参加者アンケート結果 ※一部抜粋

シンポジウム開催後に集計した参加者アンケートの内容です！



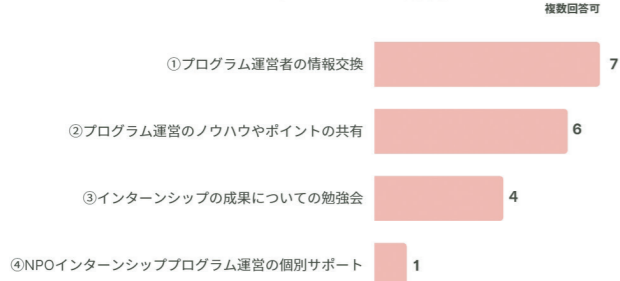
今回のイベントには、どのような立場で参加されましたか



関心のあるテーマを教えてください



NPOインターンシップラボに期待していること



9/14(プレイベント)の感想

- 新たなキーワードや、課題と感じていた部分に対する解決策のきっかけが得られた時間となりました！
- 活動している学生のリアルな意見等を聴けてとても良かったです。また、グリーンズの方のお話がとても興味深く、「U理論」「わからないことはわからないままに」等大切なキーワードがありました。
- 進行役が多かったり、ブレイクアウトルームが細かにプログラムに入っており、内容はもちろんのこと耳でも飽きない時間でした。
- 今回初めて足を踏み入れた「インターンシップ」の世界が、想像以上に奥深く…色々な話を聞いてみたい！と思う今日の講座でした。ありがとうございました！



9/18(メインイベント)の感想

- 異なる立場からそれぞれの目線でお話いただいたことで、NPOインターンシップの後に広がっている進路の幅を改めて感じられましたし、私たちが今年度インターンに送り出している学生さんたちにもそのこと自体をまず伝えてあげたいと思いました。
- 学生さんの声をグループで聞くことができ参考になりました。NPOには就職できなかったけど、役に立ったという社会人の話も聞きたいです。
- 世田谷の事例話を聞いたときは持続性が心配だなと思ったのですが、あとあと考えてみて、アツい思いがある人が集まった時にとりあえずやってみる、というものアリだなと思いました。時には持続性を考えないことも大切なのかもと思いました。
- 運営側と話す機会があまりなかったが、目指しているものや抱える課題などは共通のものがあると知れてよかった
- 地域活動やインターンに興味を持っているさまざまな立場の方とお話できてとても面白かったです。学生さんもたくさん参加していたのがよかったです。

その他の感想

- 新たなキーワードや、課題と感じていた部分に対する解決策のきっかけが得られた時間となりました！
- もうすこしラフな感じの、NPOインターンシップ関連のコミュニティがあると情報交換も気負わずにできてなお嬉しいです！
- サイボウズ社すごいですね。会場も楽しめました。グラレコも素敵でした
- 地域でつながりのある団体さんも普段から忙しく、ボランティアの受け入れ等活動についてじっくり話をしたりする時間もないのでこういう機会は大変ありがたかったです。
- 今後も気かけながらHPやFB等での発信をみたり、参加できるものは参加しながら応援しています。

WEBサイトとkintoneを連携してみよう！ kintone勉強会～応募フォーム編～(4/25)



●実際に伴走支援を受けての感想●

< NPO 法人アクションポート横浜 >

昨年度から学生スタッフ・インターン生のやりとりをkintoneに一括化していますが、まだまだ使い方が不慣れで日常の疑問点を伴走支援で解決できたので助かりました。個人的には学生日誌に「いいね」ボタンを採用することで、双方向性が生まれたことが印象に残っています。

< 一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス >

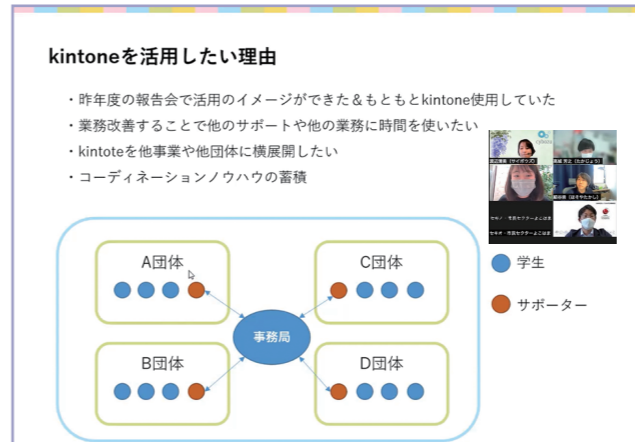
日頃から業務で使っていたWordpressとkintoneを連携させることで便利に活用でき、本当に助かりました。インターンシップのプログラムの他に、サポートのお陰で別の企画でも応用して使うことができるようになりました。

今年度、横浜と町田のNPOインターンシッププログラムでのkintone活用における伴走支援を行っていただきました。

支援してくださったのはkintone エバンジェリストの細谷崇さん。細谷さんはNPO法人のためのIT支援事務所htとして2008年から10年以上、NPO法人のホームページ制作や地域情報を発信するポータルサイト、業務効率UPに繋がるITの導入のお手伝いをされています。

4月にはkintone勉強会をオンラインで実施しました。そこではウェブサイトとkintoneを連携した「応募フォーム作り」をテーマに、フォームを作る過程を画面共有しながら作り方を見せていただきました。プログラムの中で、学生や団体を募集するときやアンケートを入力してもらいたいときなど、様々な場面で活用できそうな内容でした。

その後は1～2ヵ月に1度、オンラインで定例会を実施。kintoneを活用する上での疑問点や導入したい内容などきめ細やかに相談に乗っていただいたり、細谷さんが支援している全国のNPOの事例についても教えていただきました。



2023年3月10日には、報告会&勉強会も実施しました。町田ではLINEグループからkintoneスレッドへの移行やWordPressとkintoneを連携させたフォームづくりについての事例、横浜からは学生コーディネーター&マネジメントの両面から日誌の活用やいいね機能の追加、スペースの活用などの話がありました。参加者の中には、これからkintoneを活用しようとしている方から学生とともに実践をされている方、NPOへの伴走支援をされている方で幅広く参加されていたので、日常の使い方からNPO運営にまつわる活用まで幅広く意見交換でき、充実した2時間でした。次年度もkintoneを使い、色々チャレンジしていきたいと思っています。



県境を越えよう！仲間とつながるNPOインターン生交流会(3/1)

若手ラボメンバー企画として、「県境を越えよう！仲間とつながるNPOインターン生交流会」を開催しました！

地域で活躍している学生・コーディネーターが全国各地から集まり、それぞれの活動や今後のキャリアのこと、活動している中で感じていることを22名の参加者でわいわいシェアできる時間となりました。参加者の皆さんは札幌・千葉・町田・世田谷・栃木・横浜とまさに多種多様な地域からの参加で、活動の内容にも地域ごとの色が出ていました。なかなか普段は聞けない自分の所属外での取組に興味津々…。

グループトークでは、「学生と大人もごちゃまぜに話す回」「学生は学生同士、大人は大人同士」と2通りにグループを分けてそれぞれで対話し、全体でシェアする形で進めました。

学生参加者同士で共通している内容として挙がったのは「みんな挑戦してる！」ということ。「でも、1人で挑戦しているわけではなく、団体の皆さんたちと一緒に挑戦しているから前に進める」「活動の成果も自分のためだけじゃない、他の人のためにもなっている」という感想が印象的でした。

また、活動先では普段接していなかったシニアや子どもなど、地域の異世代の人と関わることを通して、「シニアも自分たちに歩み寄ってくれていることを実感した」「子ども達とも一緒に楽しめる場づくりをしてみたい」と、インターンシップの活動をきっかけに地域でもっと活動してみたい、この経験を活かしたい、という嬉しい感想も上がりました！

22名でワイワイ話すと2時間もあっという間。シェアしたい話は尽きませんが、「色々な人と関わってみよう！」という気持ちも多いNPOインターン参加者の皆さん。

またこうした、地域を超えたつながりを持つ機会も作っていただけたいと思います！





NPO インターンシップラボ シンポジウム 2022

NPO インターンシップラボ実行委員会 メンバー

市川徹（一般財団法人 世田谷コミュニティ財団）

上原一紀（認定 NPO 法人 サービスグラント）

江藤佑（公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム）

大石果菜（まつど市民活動サポートセンター）

影山貴大（ソーシャルメディエーター協会）

熊谷紀良（東京ボランティア・市民活動センター）

瀬川敬太（公益財団法人 SOMPO 環境財団）

野際里枝（あびこ市民活動ステーション）

野地理恵子（認定 NPO 法人ふくしま NPO ネットワークセンター）

橋本空（町田市地域活動サポートオフィス）

宮坂真耶（とちぎコミュニティ基金）

渡辺清美（サイボウズ株式会社）

高城芳之（NPO 法人アクションポート横浜）

NPO インターンシップ ラボって？

地域と若者の出会いや双方の成長を促すことができる「NPO インターンシッププログラム」に着目し、運営を担う中間支援組織が効果的なプログラムを展開していけるようにサポートしていきます。これから NPO インターンシップを自分の地域で始めたいという方はぜひご連絡ください！



NPO インターンシップラボ
<http://npointernship-lab.net/>
<https://www.facebook.com/npointernlabo/>



NPO 法人アクションポート横浜
〒231-0023 横浜市中区山下町 94 番地 横浜中華街パーキング共同組合内
TEL&FAX : 045-662-4395 メール : info@actionport-yokohama.org
ホームページ : <http://actionport-yokohama.org/>



発行：2023年3月

デザイン：大石果菜

作成協力：NPO インターンシップラボメンバー、シンポジウム登壇者の皆様